

正六年十一月十日、畠山左衛門佐殿より海
風鷹三桶。文明十三年三月廿五日、畠山左
衛門佐殿、公方さまへ海風鷹百桶。その他所
見が多い。寛正六年十二月八日『御被官賀州
湯淺八郎右衛門海風鷹百桶進上例。』とある如
きも、恐らくは能登産でなかつたかと思はれ
る。

コハク 虎白 ↓ゲツシユウコハク 月嘯
虎白。

コバシ 小橋 鳳至郡下町野郷にあつた呂
名。時國村岩倉寺永祿九年十二月七日淺見入
道惠有の寄進狀に、『下町野小橋村若田地之事
云々。』とある。この村名は後世存せぬ。

コバシスガハラジンジヤ 小橋菅原神社
↓コバシテンジン 小橋天神。

コバシテンジン 小橋天神 金澤古寺町に
鎮座する。貞享二年の由來記によれば、初め
隼川野町神明の向かうに在つて、大坂陣の時
御局が社參して凱陣を祈り、後に河原町小橋
爪へ社地を轉せしめられたが、寛永十三年町
割改正の時今の所に移つたとある。小橋爪と
は中河原町(前記河原町、今の片町)香林坊橋
の高西側である。又小橋天神縁起には、初め
河北郡吉倉村に在つたが、社僧道安之を隼川
小橋際に轉せしめたといひ、何れが眞なるを
知らぬ。社僧寶來寺世々之に奉仕したが、明
治元年神佛混淆禁止の後復飾して上田藏多と
改稱し、社號を小橋菅原神社とした。

コハマ 古濱 能美郡德橋郷に屬する部落。
明治八年十月國府と合して古府とした。

コバヤカハヒデアキ 小早川秀秋 實は豐
臣秀吉夫人の弟木下家定の五男で、天正十九
年小早川隆景の養子となり、その領前・筑

後・肥前の各二郡を讓られた。慶長二年朝鮮
再征の役に總帥として出征し、三年正月蔚山
に勇戦したが、その行爲秀吉の旨に叶はず、
四月歸朝の後越前及び加賀の一部に封を移さ
れ、以て秀吉の薨後四年二月五日附を以て筑
前・筑後を還附せられる時に及んだ。こゝに
加賀の一部といふのは秀秋がその臣國司土佐
守に與へた宛行狀に富塚・新保・小坂村があ
り、又龍野孫兵衛に與へたものに横北・宮地・
野田村が見えるのみならず、後に江沼郡を領
した山口宗永は秀秋の老臣であつたのであ
るから、同郡一圓であつたらうと考察せられ
る。

コバヤシゲンテイ 小林元貞 鹿島郡田鶴
濱の人。名は照、鬼路・漁洋者と號した。享和
元年に生まれ、嘗て京都に上つて醫を淺井長
門守に學び、歸つて業を開き、又私塾を設け
て郷國の子弟を教育し、其の各大に著れた。
明治五年七十二歳を以て歿。

コバヤシシゲマサ 小林重昌 初め大納言
と稱し、後彌六左衛門と改めた。もと越中の
遊佐左衛門大夫に仕へ、石黒左近と共に木船
城に居たが、天正十年二月加賀に來て佐久間
盛政に仕へ二百石を領し、十一年四月賤嶽
の戦に創を得て越中に逃げ、八月加賀に來て
利家の臣たらんことを乞うたので、利家は之
を村井長頼に屬し、三百俵を與へしめた。十
二年七月末森の戦前に、富山城主佐々成政の
情報をその同朋正林から得、利家をして警戒
せしめ、九月成政の來襲するや奮戦して首級
を得、十三年二月の連沼の役、三月の鷹巢の
役、六月の水見の役並びに長頼に従うて功が
あり、越中平定の後主命に従うて井波城に留

守し、前田利政の能登に入るや、村井長次と
共にその地に移り、慶長三年七月廿七日歿し
た。時に祿六百二十俵を受けてゐたといふ。

コバヤシシヨウヘ 小林庄兵衛 父庄兵
衛は朝倉義景に仕へ、義景滅亡の後前田利家
に來仕したものであつた。子の庄兵衛は前田
利常の世に至つて進物奉行となつたが、收支
不確實の爲、吟味の上切腹を命ぜられた。大
坂再役の時三ノ丸東下で首一つを得たとい
ふ小林少兵衛も同人であらう。

コバヤシチユウエモン 小林忠右衛門 前
田利家に仕へて四百石を領し、後富山藩臣と
なり、致仕して宗宅と號した。その嫡系は六
代忠誠康喜が、明和四年七月十八日奥御納戸
奉行の役筋不埒によつて知行を召放されたに
至つて斷絶したが、支系は長く藩に仕へた。

コバヤシヘイザエモン 小林平左衛門 父
祖數代長家の臣であつたが、續連等横死の後
黒瀧長興市景連に招かれて之に仕へた。然る
に天正十年五月景連が越後から歸つて榎木城
に入り、連龍は之を撃たうとしたから、平左
衛門は舊主の恩に報いる爲景連に隙を請ひ、
更めて城中に討入つて景連と相搏ち、遂にそ
の首級を擧げ、同時にその景連たることを證
するが爲指料を奪ひ來つて之を連龍に上つ
た。後前田氏に傳へた丈木の刀といふものは
である。

コバラヒブギヨウ 小拂奉行 萬治三年の
御定誓に、金銀小拂奉行とあるものであるが、
その以前から有つたのであらう。後世では大
小將から一年交代に勤めた。會所の一局小拂
所の頭である。

コハルアン 小春庵 金澤に於ける蕉風俳

人の庵號。初め龜田屋小春に起り、後越中屋
洪水小春庵二代と稱し、蒼虬門の完和、梅室
門の立芳相襲ぎ、明治の桃芽を以て最終とす
る。

ゴバンガヒラ 碁盤ヶ平 鳳至郡皆月の東
方一軒、大峰山上海拔二四〇米の所にある平
地をいふ。

ゴバンジマ 碁盤島 羽咋郡瀬浦の海岸か
ら一軒の海中に在る。全島岩盤で、周圍四〇
〇米、高さ一二米。

ゴバンワリ 碁盤割 ↓デンチワリ 田地
割。

コビシイケ 小菱池 シベ 河北郡湯涌郷
に屬する部落。邑名は大菱池村との境に大池
といふものあるに因る。

コヒチ 轡路 珠洲郡木郎郷に屬する部落。
能登名跡志に、『まことに此轡路村は、名にめ
で、風景たぐひなし。沖に辨財天の小島あり。
菱尾波というて、磯に菱形の波寄する也。又
左右の岩根の鹽窟の体言語に絶したる所也。』
とある。

コビヤクシヨウ 小百姓 ↓ヒヤクシヨウ
百姓。

ゴヒヤクタウゲ 五百峠 能美郡尾小屋か
ら丸山に至る間にある。高さ四五九米。二十
餘の屈折を経て頂上に達するを得たが、今は
開墾せられて舊狀を存しない。能美郡名跡誌
に、往昔大木の繁茂して通行困難であつた
時、斧五百挺を用ひて開拓したからの名だと
載せてゐる。

ゴヒヤクラカン 五百羅漢 ↓ケイガンジ
桂岩寺。
ゴビヨウダニ 御願谷 石川郡額谷領の額